

第5回

開催日 平成22年3月18日(木)

15:00～17:05

開催場所 JST東京本部 役員会議室

議事次第

1. 平成21年度の随意契約と1者応札の契約の事前点検作業について
2. 平成21年度(4月～1月)の随意契約と1者応札・応募案件の点検について

配付資料

資料1 第3回、第4回のまとめ

資料2 平成21年度(4月～1月)の随意契約と1者応札・応募案件一覧

資料3 契約関係資料6件

報告事項

○審議に入る前に以下の2点について委員の了解を得た。

1. 閣議決定「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」を踏まえ、平成21年度の随意契約と1者応札の案件について事前点検を行うとの総務省行政管理局からの要請があるが、当機構は1月で今年度の調達要求を締め切っており、既にほとんどの契約は手続きが完了しているため、事前に点検すべき案件がないこと。
2. 閣議決定の趣旨を踏まえ、閣議決定で要請された一連の点検・見直しの趣旨を速やかに反映するため、自主的に平成21年度の既契約案件から競争性のない随意契約及び1者応札・応募であった案件を可能な限り抽出し、それをもって契約監視委員会にて点検すること。

審議事項

平成21年度(4月～1月)の新規1者応札・応募の案件の内、金額の大きいものや関連公益法人との契約を基準として、委員長と事務局で下記の6件を選択し点検していただいた。

なお、下記6件以外の案件については、点検前に自ら改善することとした内容を個別に記載した一覧表を事前に配布し、その方向で見直す旨をお伝えしている。また、前回随意契約であった案件と前回1者応札・応募であった案件については、第2回の点検結果と重なること、新規の随意契約については、土地事務所賃借等であり随意契約とした

理由等は第2回の点検対象と類似の内容であり、改善方針はこれに準ずることを説明した。

- (1) JDream II システム用機器リプレイスに伴う移行作業
- (2) 高分解能・高精度ハイブリッド型フーリエ変換型質量分析システム
- (3) 独立行政法人科学技術振興機構保有知的財産管理業務
- (4) J-GLOBAL 冗長化用サーバ機器の購入
- (5) 科学技術情報発信・流通総合システム ユーザサポート業務
- (6) 平成 21 年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会の運営

質疑応答

1. JDream II システム用機器リプレイスに伴う移行作業

Q) 仕様書等受領や入札説明会参加は何者あったか？リプレイス機器も含めた契約か？リプレイスによりどの程度コストが削減できたか？予定価格算出方法は？

A) 仕様書等の受領は 2 者だが入札説明会参加は 1 者であった。リプレイス機器の契約は別である、リプレイスによりシステムトータルで対平成 21 年度比約 6, 000 万円削減できた。予定価格は技術審査により適合とされた JST 標準単価による積算と参考見積を比較して算出し、5 回入札を行った結果、落札せず不落随契となったことを説明し、特に問題点は指摘されなかった。

2. 高分解能・高精度ハイブリッド型フーリエ変換型質量分析システム

Q) 仕様書作成に当たって、研究者の要望を全て聞くのか？落札者は代理店か？予定価格作成方法は？据え付けの費用も含まれているのか？

A) 研究者の要望をできるだけ聞くようにしているが、予算等の関係もあるので仕様書作成者と研究者とよく話し合っ研究も納得した仕様としている。落札者は代理店である。今回の予定価格は同様の仕様が J S T にも大学等にも無く、参考見積価格から若干の調整を行った。据え付け費用も含まれていることを説明し、特に問題点は指摘されなかった。

3. 独立行政法人科学技術振興機構保有知的財産管理業務

Q) 随意契約から一般競争入札に代わった際、予定価格の単価は変わったのか？何故単価契約なのか？ライバルとなるような他の業者はあるのか？

A) 契約方式変更の際は、予定価格の単価は変更していない。単価契約としているのは特許の性質上、年間で何件処理することになるのか契約時点では判らないためである。ライバルとなるような他の業者はあることを説明した。

4. J-GLOBAL 冗長化用サーバ機器の購入

- Q) 仕様書等受領や入札説明会参加は何者あったか？ 予定価格の算出方法は？
- A) 仕様書等受領は 4 者であったが、提案書を提出したのは 1 者であり、提案書を提出してきたところの参考見積をもとに J S T 独自の査定を行い予定価格を作成したことを説明し、特に問題点は指摘されなかった。

5. 科学技術情報発信・流通総合システム ユーザサポート業務

- Q) 入札説明会の参加は何者あったか？ 契約内容はほとんどが人件費なのか？ 予定価格の算定方法は？
- A) 入札説明会の参加は 1 者で、契約の内容はほとんどが人件費である。予定価格は J S T の情報化統括委員会が審査を行い工数を決め、J S T の単価を当てはめて作成した。
- Q) 平成 22 年度契約はもう終わったと思うが結果は 1 者応札なのか？
- A) 平成 22 年度は複数者が入札に参加し、平成 21 年度の落札者とは異なり、契約金額もかなり低くなった。

○落札者が異なり契約金額が下がった場合、実際に仕事を行っていく上で問題が生じないように、また問題が生じた場合はよく話し合うようにとの指摘があった。

6. 平成 21 年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会の運営

- Q) 入札説明会の参加は何者あったか？ この契約は会場の設営と運営だけか？
- A) 入札説明会には 5 者参加があったが、入札者は 1 者のみであった、会場の設営と運営だけの契約である。

○競争性の確保から入札に参加しなかった残り 4 者に何故入札に参加しなかったのかその理由を聞いた方がよい。

- Q) 発表会に参加する生徒の旅費などの事務作業が別契なのは何故か？
- A) 競争性の確保から作業を分割し、会場の運営と旅費などの事務作業は別々としたが、結果的に本契約は旅行業者が落札したことを説明し、特に問題点の指摘はなかった。

総評として、1 者入札は数が減ってきている。将来的にも 1 者しか応札してこないような案件もあるが、潜在的に競合する業者がありそうな案件もあるとの指摘をいただいた。

以上